

2023.10.14 埼玉地区合同婦人会修養会

序. 閉塞感の中にある教会

「今こそ、改革派教会を立てる大切さを覚えよう」と非常に大きなテーマを掲げました。はっきり言って、1回で語るというよりは、1年かけて語り続けなければならない内容です。ですから今日語ることは、その概要だけになるかと思えます。

今日の講演の結論をお語りします。灯台下暗し、林の中で一本の木を追い求めることなく全体像を把握する必要があります。日々、毎日の生活に追われています。教会でも、その週の活動に追われています。このとき、私たちは目標・改革派教会の持っている本質を見失います。改革派教会の本質、ビジョンをはっきりと共有することが求められています。今日は、このことを共有していただきたいと思っています。

今日は大枠・全体の流れしか語ることができませんが、さらに詳しく知ろうと思われた方は、HPや資料を紹介しますので、より深く学んでいただければと思います。

さて、1995年の阪神大震災とオウム真理教事件を境に、教会は、右肩上がりから横ばい、そして現在においては、減少傾向です。このことは、日本の人口統計ともほぼ一致するかと思いますが、しかし同時に皆さんも大きな危機を持っておられるかと思えます。このことは、2020年に始まったコロナ禍において、教会活動を自粛することが行われ、より深刻になっているかと思えます。

そのため、この埼玉地区婦人会においても、東部中会連合婦人会、連合執事会などと同様に、当番教会制度に行き詰まりを覚えています。こうした状況の中であって、「どうしよう」と手をこまねいておられることかと思えます。日々の現象・目の前しか見ていないから、このように思うのです。主なる神が私たちに何を求め、改革派教会のビジョンを確認することにより、前を向くことができるのではないのでしょうか。

I. 縦の交わり

教会や中会などの様々な集会で、各論を学びます。しかし、改革派教会の本質・全体の枠組みを理解していなければ、本質・理解を深めることはできません。そのために、改革派教会とはどのような教会なのかを理解していただくことが求められます。

そして全体の枠組みを考えると、神と私たち一人ひとりの縦の関係と、キリスト者相互の横の関係を考えることが大切かと思えます。十戒における第一の板・第二の板の関係が、縦の関係と横の関係ということができるかと思えます（参照：マタイ22:37~40）。

1. 神の御計画（神論(2)、聖定・予定(3)、創造(4)、摂理(5)、恵みの契約(7)）

宗教改革の旗印の一つに「神の御前に（コーラムディオ）」があります。主なる神の御計画に基づいて、私たち人間が創られ、命が与えられています。そして主の御計画に従って、私たちは救いへと導かれ、神の恵みの中に満たされています。

ですから、考え方としては、「私たちが今、何をすべきか」を考えるのではなく、「主なる神は、今こうした状況の中、私たちに何を求めているのか」という神中心の信仰観が求められています。

2. 私たちに与えられた救い

そして、主なる神の御計画に従い、私たちは救いに導かれました。このとき私たちは、神の御言葉が示され、それが福音として、私たちは罪の悔い改めと、主なる神への信仰が与えられました。これは、神の御言葉である聖書を私たちが自分の能力で理解し、自らの救いを勝ち取ったのではなく、主の御言葉が語られることと同時に、聖霊が働き、私たちの石の心を打ち砕き、肉の心、新しい霊が与えられたのです。このことはエゼキエル書36:25で「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から石の心を取り除き、肉の心を与える」と語られているとおりです。

このことを教理において語る時、主の御業として、私たちが義と認め・子とて受け入れてくださいました。このとき私たちの側では、石の心が砕かれ、罪を悔い改め、信仰を告白する者へと変えられます。そうすることにより、日々、主の御霊により聖化の歩みを行うわけであり、このとき私たちの側としては、十戒の第三用法でありますキリストに倣った生活を行うよう、善き生活へと導かれます。

3. 聖書と教理

そして信仰が与えられた私たちは、信仰の養いを受けなければなりません。このとき、神の御言葉である聖書が用いられるわけですが、同時に教理としてのウェストミンスター信仰規準を用いることが大切です。聖書全体の救済史と教理としてのカテキズムです、これは、廃刊になりましたが、教会学校教案誌において用いられた方法です。教理史（旧約・新約各1年）、カテキズム2年の4年サイクルです [III]。

聖書に関してですが、別紙の「神の永遠の御計画」と記されている表を見ていただきたいと思います。ここに聖書の全体像が記されています。宗教改革では「聖書のみ」・「聖書全体」を語りました。聖書の歴史の全体像を理解することは非常に大切です。ここにおいて旧約の歴史・使徒時代の歴史を学ぶことも大切ですが、同時に、この中に私たちも生きているという事実を確認することです。聖書には「その日」と繰り返し語られていますが、主イエスが再臨し、最後の審判が行われ、神の国が完成するときです。

今、生きている私たちにとって、「救い」や「天国」というのが、別世界に感じてしまいがちですが、私たちも聖書のただ中に生きていることを理解することは大切です。

そして、聖書の概論（各書のまとめ）を学ぶことは有益です。

「一目で見る四福音書」（熊谷定男著）無料贈呈有

また、聖書を理解する上で、教理を理解することが大切です。「聖書のみ」を語りつつ、信仰規準書を持つのはおかしいではないかとも語られます。しかし、Iコリント3:1-3,7-9を記していますが、聖書を読んでも、それをガイドが必要です。ガイドがなければ、自分勝手に聖書を読み、主が私たちに語ろうとしている教えから離れてしまいます。そのためにあるのが、教理問答（カテキズム）であり、教会の告白としての信仰告白です。

そして改革派教会では、信条としてウェストミンスター信仰規準を採用しています。なぜ、信仰規準を持つのか、なぜ、ウェストミンスター信仰規準なのか、といったことは、今、大宮教会の月報で連載しています。必要な方は、申し出ください。

ここにおいて、教理の全体像・ウェストミンスター信仰告白の全体像を理解することが大切です。別紙にあります「ウェストミンスター信仰告白区分」をご覧くださいと思います。これは私自身が理解するためにまとめたものであり、ウェストミンスターの研究者の誰も語っていないことです。しかし、神の教理、神と人とをつなぐ聖書・教会、そして私たちの信仰生活と三つに分けて考えることにより、私自身、しっかりきており、大宮教会においても度々用いています。

ただ、このことの説明をするためには、改めて時間を頂く必要があるかと思っておりますので、今日は割愛させていただきます。ただ、今日の講演自体は、この表を念頭に語っておりますので、少しは参考になるかと思っております。

4. 礼拝・説教 礼拝論(礼拝指針)、説教論(大教理153-160)

こうした聖書全体・改革派教理に基づいて、私たちは神による救いに与り、礼拝・説教に与ります。

コロナ禍を経た私たちは、リモートを用いるようになりました。非常に便利であり、会議などでは、定着することかと思っております。しかし礼拝では、主なる神と出会うことが、何より大切です。そして、主なる神による救いに与り、主との交わり、聖徒の交わりを求めるキリスト者としては、リモートでは限界があることにも気付きました。リモートでは、霊的な交わり、心の通った交わり、キリストの臨在における礼拝に与ることができないことが分かりました。

礼拝・交わりの大切さについては、大宮教会の週報において連載したものが 있습니다。「コロナ禍における礼拝・交わりを神学的に顧みる」。家に帰ってお読みいただければと思います。

さて改革派教会では、聖書に基づく説教が行われています。しかし、私は信条教会である改革派教会では、「教理に基づいて聖書を語る説教」が必要だと思っています。そのため、大宮教会では、聖書に合わせた箇所のウェストミンスター信仰規準（信仰告白・大教理・小教理）を信仰告白することとし、説教においても可能な限り引用することとしています週報。

そして聖書全体を意識するため、大宮教会に赴任して、最初に祈禱会において行ったことが聖書概論を学ぶことでした。各書毎に学び続けました。また夕拝では、教理に基づく説教を行っています。最初はウェストミンスター信仰告白を学び、続けて山上の説教、そして現在はガラテヤ書の御言葉に聴いています。

礼拝では、主に新約聖書に聴き続けます。そして毎月最後の週は旧約聖書（創世記）を読んでいます。また祈禱会では、旧約聖書（今年はコヘレト、雅歌）を読んでいます。

さらに礼拝中に子どもメッセージを語っていますが、これは基本的には教会学校教案誌のカリキュラムに基づき、子どもカテキズムを学び、救済史として旧約聖書から学び終え、新約聖書を読み始めた所です。

またこれらの礼拝・夕拝・祈禱会の説教・メッセージは、次週の週報において要約をお渡しし、同時にHPにおいても公開しています。HPでは過去の説教（前任地を含め）を掲載しています。

そして、コロナ禍において始めたYouTubeの公開も、礼拝・夕拝・祈禱会において継続しています。HPから入っていただくことができますし、改革派大宮教会をチャンネル登録していただきますと、過去のものも拝聴することができます。また、祈禱会や礼拝後に行っています教会学校では、Zoomも活用し、双方向の交わりが行えるようにもしています。

週報の説教要約などは、感心のない方はスルーしていただいても結構ですが、感心を抱いていただいた方々に用いていただいているかと思っています。

II. 横の交わり

さて、主なる神によって召された私たちキリスト者は、御言葉の養いにより信仰が強められていきます。このとき私たちは、教会に属し、神の民として奉仕し、共に教会を立て上げることが求められます。

このときに大切なことは、クリスチャンだから行わなければならないのではなく、救いの喜びに満たされて、主によって押し出されて行うことが大切です。

5. 教会の形成 教会論(25)

私たちが信仰生活を送るとき、健全な教会形成が求められます。相応しい賜物がある教師・長老・執事が立てられることです。そして健全な会議（小会）運営が求められます。記録調査委員会において、各教会の小会記録を確認させていただいていますが、教会にとって何を決議し、何を記録に残すべきか、十分に理解を得ていない教会が少なからずあります。

長老主義を成熟させるためには、一人ひとりの信仰が養われることが必要です。教会において、長老・執事が、改革派・長老主義に礎を持った信仰が養われなければ、牧師任せ、強いては牧師の独裁教会に直ぐになります。長老・執事が新たに起こされないということは、教会にとって危機です。

また、横の交わりを意識し、教会員相互の聖徒の交わり、中会・大会における交わりを広げることが疎かにしてはなりません。埼玉地区の合同婦人会もその一つであり、皆さん、参加したい思いがあっても、共に盛り立てていこうとする一歩が必要かと思っています。

改革派教会に属する私たちとしては、他教派のキリスト者は、教理の理解が異なり、違った方向を向いているようであっても、それでもキリストにあって同じキリスト者として、違いを認めつつ交わりを行うことが大切かと思っています。

6. キリスト者としての歩み（救いの喜びの生活） I コリント10:31、ローマ12:1,2

さて、では私たち一人ひとりがキリスト者として、どのような信仰生活が求められているのかということですが、もうくどくどと語ることはしません。救いの喜びに従って生活することです（ウェストミンスター小教理問1）。

I コリント10:31 「だから、あなたがたは食べるにしろ飲むにしろ、何をするにしても、すべて神の栄光を現すためにしなさい。」

ローマ12:1,2 「こういうわけで、兄弟たち、神の憐れみによってあなたがたに勧めます。自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。あなたがたはこの世に倣ってはなりません。むしろ、心を新たにして自分を変えていただき、何が神の御心であるか、何が善いことで、神に喜ばれ、また完全なことであるかをわきまえるようになりなさい。」

それが神への奉仕に結びつきます。大宮教会では3つのことを語っています。

①時間を献げる：神礼拝 ②賜物を献げる：奉仕

③財を献げる：献金 「献金について」(2023.1)

救いの感謝をもって、主なる神に、時間・賜物・財を献げることを意識していただければ、各教会において実践していただければと思います。ここに教会の広がりがあり、この婦人会の運営に関わることも、この延長線上にあります。「信徒の手引き」は必読書です。

7. 聖徒の交わり 聖徒の交わり(26)

①聖徒の交わり

・「コロナ禍における礼拝・交わりを神学的に顧みる」

・2022年教会教育研修会「わたしたちはなぜ教会に『集まる』のか」(特別×座談会)

・連合執事会講演「息が聞こえる交わりこそが大切」

～ウェストミンスター信仰告白第26章「聖徒の交わり」より、
神学的に交わりに基づく愛の業を考える～[HP](#)

先程も語りましたが、コロナ禍を経験し、私たちは改めて聖徒の交わりの大切さに気が付きました。ウェストミンスター信仰告白も、第25章の教会論に続く第26章において「聖徒の交わり」を告白します。ウェストミンスター信仰告白は、使徒2:42「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを割くこと、祈ることに熱心であった」に基づき告白しています。

改革派教会では、神学を構築してきましたが、交わりに関して、コロナ禍前は殆ど語られてきませんでした。反省すべきです。主なる神と出会うと同時に、キリスト者相互に、息と息の通う交わり、人格と人格を交える交わりが求められます。これはリモートではできません。

②赦し合い・和解

罪の赦しが示され、キリスト者とされた私たちは、他者の罪・弱さに対しても、キリストにあって赦し、和解することが求められています。教会内において、批判が続くようなところで、いくらキリストによる罪の赦し・和解を語っても、聴く者に響くわけがありません。

また、教会会議において議論することと、裁くこととは違いますが、日本においてはこれが区別されません。赦し合いが求められているからと言って、会議において議論を避けようとするのは本末転倒です。

③愛の業（執事活動・ディアコニア）

そしてキリスト者として、聖徒の交わりが行われ、赦し合いと和解が成立するとき、初めて愛の業（執事活動・ディアコニア）が可能となってきます。311以降、教会においてディアコニアが語られるようになってきました。大切なことです。しかし注意しなければならないことは、上から目線で奉仕をすることです。「困っている人に」援助する姿勢です。震災・自然災害で困っている人を見て、本来は自分がそうであったのだとの思いに立つことができるのか、です。この思いに立つことができたとき、「施してあげる」のではなく、今、主から与えられていることに感謝して、献げる・施すことが可能となるのではないのでしょうか。

④交わりの広がり（中会・大会の交わり）

そして聖徒の交わりは、各個教会内に留まることなく、教会外、そして中会・大会にまで広められるべきです。隣の教会の状況が分からないのは、私の思いでは、各個教会主義であり、長老主義ではありません。余裕があるから行くのではありません。中会・大会の交わりを行うことにより、互いの弱さ・足りないことが示されます。このとき、互いに協力し、助け合うことができます。小さいからできないのではなく、交わりがあるから協力し合い、個人の賜物が用いられるのです。

各個教会が勢いがあるときは、各教会毎に活動を行っていても問題は表面化しません。しかし、本来の長老主義・中会主義とは、教会間の交わりを行うことにより、協力できるところにあるのではないのでしょうか。今、東部中会は力がなくなり、地区において協力しあうように求めています。交わりを持ち、互いの状況を知ること、祈ること、そして協力することにより、現在においても、教会は活力を得ることができるのではないのでしょうか。

⑤喜びの伝達（伝道）

さて、「改革派教会は伝道しない」ということが語られてきているようです。伝道に関しては、今年夏の三中会合同修養会において、スパーリンク先生が2回の講演を行ってくださいました。そこで改革派信仰に基づく伝道（リバイバル）に関して、語ってくださいました^[HP]。

改革派教会は、「教育的伝道」という言葉で語りますが、信仰教育に基づいた喜びに満ちたキリスト者とされるとき、喜びの生活が伝道となります。このことを今日も語ってきました。

そして私は、伝道もディアコニアと共に、聖徒の交わりの延長線上にあると思っています。「キリスト者だから、伝道しなければならない」では、会社における営業マンと同じとなります。救いの喜び、救いの感謝が自然と、神への奉仕、そして聖徒の交わりに繋がり、その延長線上に、まだ教会に來たことのない人たちに対して、主を証しして行くこととなります。

8. ディアコニア

- ①教会内の交わり
- ②中会・大会の交わり
- ③他教派との交わり
- ④救援活動
- ⑤社会問題

ディアコニアに関しては、聖徒の交わりと重なることが多く、すでに語ってきたことです。ここで一つ付け加えることが、社会問題です。これは二つの方向性があり、一つは、ヤスクニを代表とする日本における偶像と戦うことです。ヤスクニ問題は、感心が薄く、一部の専門家・活動家が行っているように思われている方もいるかと思いますが、教会の問題であり、教会全体で意識していなければ、戦時中同様に躓きます。

先日、ヤスクニ探訪のプレ集会を行いましたときの原稿を紹介しています^[HP]。ここで私が一つの問題提起したことは、香港の民主化弾圧、ウクライナ戦争が行われている最中、起こってほしくないのですが、中国による台湾危機が発生したとき、日本が戦争に参加する可能性が十分にあるということです。今の現状では、改革派教会では一致を保つことができず、混乱するでしょう。

来週の大会で、「平和の宣言」が採択されるかと思いますが、戦争の問題に関して、ヤスクニという偶像に対して、改革派教会として一致して戦うことができるのでしょうか。

もう一つの方向性は、人権や環境の問題です。LGBTQに関しても、教会で一致がないでしょう。これも身体障害者・精神障害者同様、罪の結果生じた障害の一種だと私は解釈しますが、教会の対応などは、教会毎に、慎重に考えなければならないことです。

いずれも大切なことですが、このことが教会のすべて・中心となってはなりません。ディアコニア・教会の広がりの一部にすぎません。バランスを失えば、教会は健全に成長することはできません。

9. 中会・大会 教会規定、政治規準

①長老主義

改革派教会を立て上げるとき、長老主義教会であるべきです。このときに牧師である教師と共に長老が立てられることです。長老が神学をしっかりと身に付け、牧師に意見することができることが求められます。牧師の言いなりであれば、教会は成長しません。また、簡単に独裁主義にすなりします。

②会議・委員会

そのために大切なのが、小会・中会・大会という会議であり、各会において行われる委員会です。聖徒の交わりを行い、赦し合うこと・和解することが求められているからといって、牧師が提示する提案を受け入れていけば良いものではありません。牧師を独裁者にしたり、あるいは教会のすべてのことを牧師の責任にするのは、長老主義ではありません。

共に主の導きを真剣に議論し合い、話し合う、その上で、決議されたことに関しては、一致して行動することが大切です。今、中会でも大会でも、じっくりと議論すること、懇談することが減っています。ウェストミンスター信仰規準の公認の議論を行っていますが、拙速感が否めません。

③交わりの広がり・改革派エキュメニカル運動を

改革派教会は、ウェストミンスター信条を持ち、非常に小さい・他派との交わりを閉ざした教会のように思われているかと思います。しかし、本来は、改革派信仰の誤った認識を正し、また他派との違いを理解した上で、交わりを行っていく、さらには様々な協力を行っていくことが大切です。

日本には、同じ改革派・長老派の教会がいくつもあります。特に教会が弱く・小さくなっている今日、そうした教会と、もっと積極的に交流を行っていくことが求められています。

改革派エキュメニカル運動が必要です。

④改革派信仰の継承（教会史）

歴史において形成された改革派教会を知らなければ、教会において生きた信仰を養っていくこと、成長することはできません。目の前だけを見てはダメです。全体的な視野が必要です。最初に語った聖書・教理の理解も必要ですが、改革派教会として積み上げてきた歴史を知っていただきたいと思います。「改革派教会史」で学んでいただきたいと思っています。

⑤アーカイブズ

また私は歴史資料編纂委員会として、アーカイブズの構築を行っています。歴史を積み上げること、それを次の世代に残していくことは大切です。意識しなければ、資料は失われていきます。このとき、改革派教会の目的・アイデンティティも失われます。

講演の結論です。目先だけを見ては全体像は見えません。改革派教会がどのような教会であり、どこを目指しているのか、改めて確認していただきたいと思います。

参考資料

- ・日本キリスト改革派教会HP
- ・大宮教会HP（説教要約・講演(牧師文書内)）
- ・日本キリスト改革派教会 文書資料HP (www.rcj-net.org/resources/)
- ・大宮教会（週報・月報・年報）
→ 毎週メール配信します（希望の方は辻牧師まで）。
バックナンバー(pdf)が必要な方もお申し出ください。
- ・週報コラム・月報巻頭言（抜粋）2018-2022年 希望の方は辻牧師まで。